



タイトル「**2017年度 経済学部シラバス**」、フォルダ「**2017年度 経済学部シラバス**」  
シラバスの詳細は以下となります。



|                |  |      |    |
|----------------|--|------|----|
| 科目名            | 国際物流論  |      |    |
| 担当教員           | <a href="#">辻本 勝久</a>  |      |    |
| 対象学年           |  | クラス  | E1 |
| 講義室            |  | 開講学期 | 後期 |
| 曜日・時限          | 月 4  | 単位区分 |    |
| 授業形態           | 講義   | 単位数  | 2  |
| 準備事項           |  |      |    |
| 備考             | 標準履修年次 2・3年次   |      |    |
| 科目名 (英語表記)     | International Logistics  |      |    |
| 授業の概要・ねらい      | 世界経済のグローバル化に伴い、国際物流の重要性が高まっている。本講義ではまず、こんにちの荷主企業の物流戦略について説明する。続いて、国際物流サービスの供給者である航空業、海運業やフォワーダ等の特質について概説し、荷主ニーズの高度化への対応状況について学んでいく。最後に、わが国の空港・港湾や、それらへのアクセス交通網、そして背後の産業団地の整備・運営政策について、近隣アジア諸国等の事例との比較のもとで解説し、あるべき改善方向について議論する。   |      |    |
| 授業計画           | <p>講義の順序を入れ替えることがあります。</p> <p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 日本および東アジアにおける貿易の推移と現状</li> <li>3 貿易の自由化</li> <li>4 貿易自由化の進展と国際物流 (1)</li> <li>5 貿易自由化の進展と国際物流 (2)</li> <li>6 航空輸送の特性・枠組み・現状 (1)</li> <li>7 航空輸送の特性・枠組み・現状 (2)</li> <li>8 航空輸送の特性・枠組み・現状 (3)</li> <li>9 航空輸送の特性・枠組み・現状 (4)</li> <li>10 海上輸送の特性・枠組み・現状 (1)</li> <li>11 海上輸送の特性・枠組み・現状 (2)</li> <li>12 海上輸送の特性・枠組み・現状 (3)</li> <li>13 荷主ニーズの高度化と新しい国際物流サービス</li> <li>14 グローバル・ロジスティクスの発達と国や地域の対応策 (1) 港湾政策を中心に</li> <li>15 グローバル・ロジスティクスの発達と国や地域の対応策 (2) 空港政策を中心に</li> </ol> |      |    |
| 到達目標           | キーワードを理解し、簡単に説明できること。<br>講義内容をふまえて、国際物流政策や国際物流サービスのあり方に関する提言ができること。  |      |    |
| 成績評価の方法        | 確認シートとグループレポート30%、定期テスト70%の配分で評価する。定期テストは参照不可とする。  |      |    |
| 教科書            | 特になし。毎回、プリントを配布する。   |      |    |
| 参考書・参考文献       | 鈴木『国際物流の理論と実務』、成山堂書店<br>黒田ほか『変貌するアジアの交通と物流』、技報堂出版  |      |    |
| 履修上の注意・メッセージ   | 私語防止のため、履修者名簿が確定次第、全席指定制とする。その際には、目が悪い等の事情には配慮する。  |      |    |
| 履修する上で必要な事項    | IC学生証で出欠確認を行うので、必ず携帯すること。  |      |    |
| 受講を推奨する関連科目    | ワールド・エコノミー、交通政策など。授業科目関連図を参照のこと。   |      |    |
| 授業時間外学習についての指示 | 新聞等で関連する情報に触れるようにするとともに、授業で配布するプリントの復習をしてください。   |      |    |
| その他連絡事項        |  |      |    |



---

Copyright (c) 2008 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.